

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第46号／2008年3月19日発行

編集／医学研究科長

『学位は必要ない？』

内科学講座 心臓・血管内科部門 今泉 勉

心臓・血管内科では昨年8人が医学博士の学位を取得した。そのお祝いをしたが、皆一様に嬉しそうであった。最近では専門医を重視する傾向があつて学位を望まない者も多いと聞くが、当科では殆ど皆学位を取得する。臨床研修医制度が始まって以来、大学以外で研修をする医師が多くなり、学位を取得する機会も少なくなった。また大学でも大学院へ進学する者が少なくなっている。この意味では学位は今後希少価値が出てくるのではないだろうか。

同じような学位制度は米国には無い。米国では医学部に進学するためには4年制の大学を卒業しなければならないので、医学部卒業時点で彼らはすでに医学博士(M.D.)なのである。米国では大学院を終了して初めてM.D.、Ph.D.となる。

しかるに日本では高校を卒業してすぐ医学部に入るので、卒業してもM.D.では無い。英語の経歴にM.D.と書く方がおられるが、間違いである。とにもかくにも日本で医学部を卒業して、国家試験に合格しても正確にはphysicianなのである。M.D.と書いたければ学位をとるしか仕方ない。

日本で医師をやっていくにはこういう事はどうしても良さそうである。しかし、私はやはり学位を取ることを勧める。これには色々の理由がある。

一つは実利的な理由である。例えば、多くの公立病院では学位取得者は未取得者と比べ俸給が一号俸上位だと聞く。またある大学で

は学位が無いと教授になれない。履歴書に学位を記載する欄があるが“なし”と記載するのはつらいものがある。厚生医療の申請書には研究歴を記載しなければならない。

実利的でないが、もっと大切なものがある。一つは両親をはじめ多くの方々に喜んでいただけると。息子(娘)を医学部にやって、やっと博士にできたという満足感は大きい。両親が喜ぶ顔を見るのは嬉しいものである。もしかしてこれが最も良かった事かもしれない。

そして、自分が臨床をする上で見方が変わることである。一定期間深く勉強、研究することによって研究がどのようにしてなされ、結果が作られ、成果が論文化されるのかを学ぶ。そうすると、他の研究者によって発表された論文の興味ある点、善し悪し、なぜこの程度の雑誌での掲載なのか、問題点等が理解できるようになる。研究をしたことが無ければ結論を何の疑いもなく信じてしまう。私は弁当付きの薬の説明会で若い医者が何の疑問や批判もなくただMRの説明を鵜呑みにしている現状に怖いものを感じる。研究した者は真にエビデンスとは何かかわかり、臨床の現場でいかに役に立つかがわかるであろう。

最後に研究を通して物事を深く考えるようになった癖は患者を診る上で大いに役立つ。この患者の症状や所見の何が普通であつて、そうではないのか？何か新しい点や、変わった点はないのかと考えることから新しい発見がある。新しい病気を見つけるかもしれない。

新しい治療法の開発へ闘志がわくかもしれない。これらが、本当は大切なことである。

結果として研究した論文が国際一流雑誌に掲載され、それにより学位を取得できれば何よりである。君の名前は後生まで残るであろう。



ティールーム



大学院医学研究科制度改革について

これまで本ニュースレターでお伝えしてきたように、平成20年度に向けてさまざまな大学院医学研究科の制度改革を計画してきました。このたび、平成20年2月の大学院医学研究科委員会において、以下のような制度改革が決定いたしましたのでご紹介いたします。

科目等履修生制度改革

—がんプロフェSSIONAL養成プラン インテンシブコースは一部学納金が免除に！

久留米大学大学院医学研究科では従来「科目等履修生」制度について制定しておりますが、受け入れに関しては皆無の状態が続いておりました。しかしながら、大学院教育の実質化を目指すなかで科目等履修生制度を見直すとともに、活性化する方向性が文部科学省等から答申されたこと、さらには本研究科が平成19年度に採択された文部科学省 大学改革推進事業「がんプロフェSSIONAL養成プラン」においても、科目等履修生制度を活用した「インテンシブコース」の設置が人材育成の柱として打ち出されたことをうけ、当該制度を利用した人材育成を平成20年度より実施することとなりました。

この科目等履修生については、従来の制度では学納金が高額であるために希望者の進学促進につながらないと考え、一部の対象者（修士課程・博士課程等の修了者および学位取得者など）については学納金を一部もしくは全額減免したいと考えております。

コースは博士課程に悪性腫瘍専門医を養成するための2つのコース（がん化学療法・薬物療法専門医養成コース、放射線療法専門医養成コース）と修士課程の1コース（臨床看護学群がん看護論「がん看護専門看護師教育課程」）のそれぞれの開講科目を受講することができます（年間10単位程度）。

このコースを修了した後は、がん専門医（薬物療法専門医・放射線療法専門医）やがん看護専門看護師を大幅に増員させることにつながり、本学大学病院や地域がん医療における人材確保に寄与できればと考えています。

修士課程医科学専攻に「長期履修学生制度」を導入！

大学院医学研究科では積極的に社会人入学を推奨しており、平成13年度以降、博士課程及び修士課程に昼夜開講制度の導入、平成20年度入試から社会人特別選抜試験の開始などを行ってきました。一方、修士課程の目的である「高度専門職業人の養成」を達成するために、年々カリキュラムの充実などを行ってきておりますが、教育・演習内容が高度化するにつれ、社会人学生の教育・研究の促進についても力を入れていく必要があります、制度的なサポートが求められています。さらに、「がん看護専門看護師教育課程」が設置されれば、実習科目が開設し集中実施することが予想され、特に社会人学生は2年間の標準年限内の論文作成までが困難になることが予想されています。このようなことから、特に修士課程における社会人学生への学生サービスの強化として、「長期履修学生制度」を平成20年度から導入することとなりました。

長期履修学生制度は、社会人を対象として「大学院に進学したが2年間では研究時間が充分に取れない」「2年を超えては授業料が余分にかかり、経済的に負担になる」という方のため、長期にわたる修士課程の履修を認める制度を指します。この制度の標準在籍期間は3年間としており、通常の2年間に比べ時間的に余裕ある教育・研究ができます。学費に関しても通常2年間で支払う学費の総計を3年分に平分して納付していただくなど、年間の負担を軽減しています。

この制度は平成20年度入学予定者から実施することとしておりますが、今後は入学試験志願時に一括調査する方針です。

修士課程医科学専攻臨床看護学群に「がん看護専門看護師教育課程」を開設！

本学大学院医学研究科においては、平成15年度から修士課程臨床看護学群「がん看護論」に「特別科目がん看護」を設置し、日本看護協会が行うがん看護専門看護師認定試験の受験資格取得に必要な履修科目を設けていました。しかしながら、認定審査をうける必須要件の一つである「特別科目がん看護」教育課程が日本看護系大学協議会より認定されていないため、修了者は受験資格を取得できない状況が長く続いていました。また、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」のがん看護専門看護師養成コースの要件の中にも、日本看護系大学協議会の認可を受けた教育課程であることが示されていることなどから、設置の背景や審査基準に照らし、日本看護系大学協議会への申請を前提にした教育課程を平成20年度より実施することとなりました。この課程の目的は地域および施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程において、患者とその家族のニーズに応えられる専門的な知識、実践力を身につけ、さらに、がん医療の現場においてがん看護のスペシャリストとしてその役割を果たせる人材を育成することとしています。教育課程は平成20年4月から運用しますが、教育課程申請は日本看護系大学協議会の申請要項に従って7月に行う予定です。



事務通信



大学院医学研究科ホームページがリニューアルしました！！

もうご覧いただけただでしょうか？これまでもお伝えしましたとおり、本学大学院医学研究科ホームページは、ついにリニューアル作業が終了し、平成20年1月28日よりデザイン・構成を一新して公開しております。トップページより *What's New*、*在学生向け情報*の二つの掲示板を設け、講義情報、各種募集案内など大学院関連情報をいち早く皆様にお届けできるようになり、また、出張届や帰学届といった届出書類もこのホームページよりダウンロード可能となりました。大学周辺や講義風景の写真も掲載しています。ぜひともご活用下さい。

■ ホームページ掲載内容のご紹介 ■

- ・カリキュラム、講義計画など
- ・特別講義実施計画
- ・入試情報
- ・学費、奨学金に関する情報
- ・各種書式・届出用紙
ダウンロードサービス
- ・学位申請に関する情報
- ・医系倫理関係情報
- ・ニュースレター（電子版）
- ・学生生活情報
- ・在学生向け情報、*What's New*



右図は久留米大学医学研究科HPの
トップページ画面です。

アドレスはこちら↓

<http://gmed.kurume-u.ac.jp/index.html>

久留米大学 大学院医学研究科

久留米大学の理念

久留米大学は、真理と正義を探究し、人間性と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を添え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

What's New

- 2008.02.28/ 大学院医学研究科修士課程に「長期研修学生制度」を平成20年度より導入!
- 2008.02.28/ がんプロフェッショナル養成プランに伴う科目等履修生募集について
- 2008.01.28/ 風行状況報告書の公開について
- 2008.01.28/ がん専門医療人の育成を目指して
- 2008.01.27/ 久留米大学大学院医学研究科のホームページがリニューアルしました。

在学生向け情報 (学生掲示板)

- 2008.03.13/ 平成20年度大学院医学研究科学生の駐車場使用許可について
- 2008.02.27/ 大学院学生向け各種講演の実施について
- 2008.02.26/ 大学院修了者・高専退学者の入学メール使用について
- 2008.02.26/ 修士課程2学年学生研究室の活用について
- 2008.02.26/ 医学生地域医療奨励金募集に関して

◆博士課程・修士課程在籍学生の皆様へ

平成19年度成績報告並びに平成20年度履修希望調査実施について

博士課程・修士課程在籍学生の皆様を対象に、平成19年度の履修結果ならびに成績報告書を3月上旬から4月上旬に配布する予定です。併せて、各自の履修状況を踏まえ、平成20年度に履修する科目を決定していただき、履修登録を行うための「平成20年度履修希望調査」を4月上旬に実施する予定です。書類が届きましたら、速やかに当該年度の履修登録科目を決定し、医学部事務部教務課までご提出下さい。

なお、平成20年度カリキュラムは3月下旬から4月上旬に完成予定です。今しばらくお待ち下さい。

📎ご存知ですか？履修単位の修了要件は以下の通りとなっています。

修士課程：30単位（但し、学群によって必修科目の設定あり）
博士課程：30単位（但し、専攻系により学修科目の設定あり）

◆博士課程 第1学年学生の皆様へ

研究題目調査実施について

博士課程第1学年学生の皆様を対象に平成20年3月初旬より研究題目調査を実施しております。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマ（注：学位論文名とは異なる）を調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第6条に基づき第2学年前期の始まる前までに調査することと定義されております。

調査書類は既に配布しておりますので、指導教授と確認の上、ご提出いただけない方は至急医学部事務部教務課まで御返送下さい。

◆大学院科目担当責任者ならびに学生の皆様へ

大学院自己点検評価の実施について

大学院設置基準が改正（平成19年4月1日施行）され、大学院は「当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する」ことが求められています。これらの研修及び研究は「FD（ファカルティデベロップメント：授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究）活動」と呼ばれ、大学院医学研究科ではこれ

まで平成18年度に「医学教育ワークショップ」において大学院教育の改善に対する討論を実施したほか、平成19年4月1日より「大学院医学研究科規程」を改正し、「教育内容等を改善するための研修」に関する取り組みを研究科として行うことを明記しました。

さて、FD活動の代表例としては教員評価や学生評価などがあり、医学部医学科や他学部にて実施されている「学生・教員による授業評価」については、Webシステム化がなされているものもあります。今回はこのようなWebによる入力方法ではありませんが、今後の医学研究科のFD活動を展開していく上での基礎データとするべく、教員ならびに学生の皆様へ自己評価活動を行うこととなりました。今回は初の試みであることから、厳密な評価とはいかないかもしれませんが、試行的にこのような「相互評価」を実施し、結果を基に今後のFD活動に資することができればと考えています。

皆様のご協力をお願いいたします。



○自己点検評価概要

(1)「教員に対する大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

対象者：大学院医学研究科に所属する有給講師・准教授・教授で、平成19年度に履修登録がなされた科目の担当責任者

(2)「学生による大学院教育・研究に関する意識調査」の実施

対象者：平成20年1月現在大学院医学研究科に所属する学生

(3)実施時期：平成20年2月～3月

(4)結果等の公表：

結果を集計し、医学研究科委員会にて報告する。併せて結果をホームページ上で公開する。さらに本結果を平成20年8月実施予定の医学教育ワークショップ卒業後教育部会にて討議し、今後の教育・研究活動改善に資する。

後期入学試験結果

2月19日に行われた後期入学試験の結果を下記のとおりお知らせいたします。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	12名	12名	11名
博士課程	23名	23名	22名

編集後記



暖かな日差しが降り注ぎ、春らしい陽気を感じるようになりました。

平成19年度もまもなく終了です。皆様はどのような一年を過ごされましたでしょうか？

さて、お伝えしましたとおり、3つの制度改革が決定し、平成20年度よりまた新しい体制でスタートいたします。大学院教育の充実を図り、魅力ある大学院づくりを目指してまいりますので、次年度もどうぞよろしくお願いいたします。